

第 18 回宮坂英弑記念尖石縄文文化賞

受賞者 矢野健一

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、8月30日尖石縄文考古館で開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人計12件である。

候補者の内訳は、30歳代から70歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が目指した縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第18回尖石縄文文化賞の受賞者として、矢野健一氏（京都府）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏は、押型文土器の研究に代表されるように、西日本の縄文土器型式の研究を推し進め、緻密な土器編年を築き上げた。さらに、その精緻な編年に基づき縄文土器の分布圏が流動的に変化することを指摘し、集落の規模も含めて考えると、そのような流動性こそが縄文文化の重要な特徴であり、この流動性が縄文後期以降に弱まりつつ弥生社会に移行するものであることを明らかにした。このことは、西日本の縄文文化研究の大きな成果と言える。

また、関西縄文文化研究会の代表として、関西における縄文研究の活性化に大きく貢献していることも特筆される。

こうした氏の研究活動は、縄文人の行動や社会の解明に取り組んだ宮坂英弑の業績を顕彰する宮坂英弑記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿うものであり、まことにふさわしい受賞者である。

2017年8月30日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第18回受賞者 矢野健一氏